



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第126号 2023年3月15日 発行

リハビリテーション・スポーツフェス2022の開催を終えて

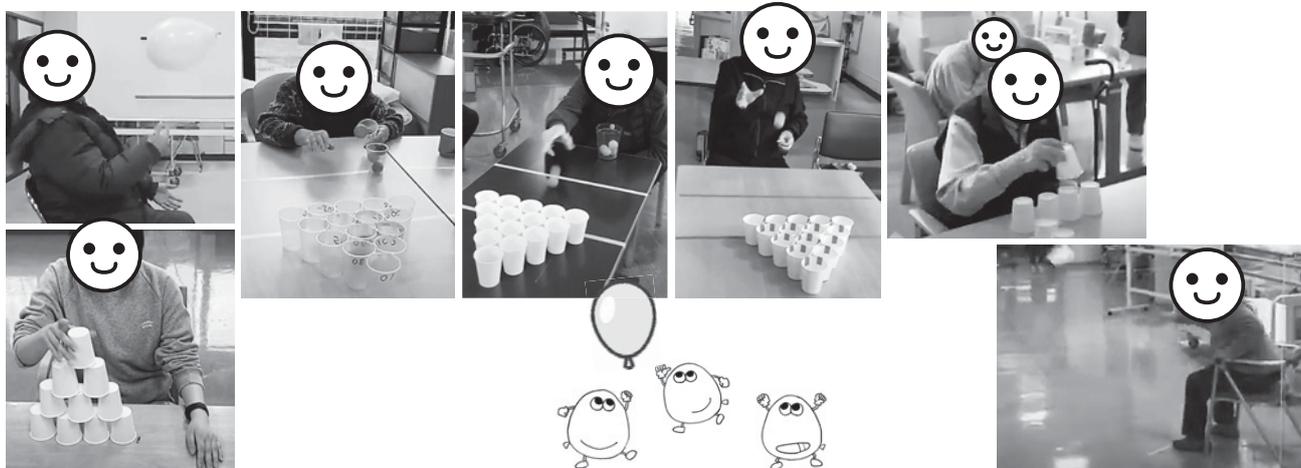
企画部担当理事 種本 美雪
(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

今年度も恒例の「風船バレーボール大会」の中止を受け、リハビリテーション・スポーツフェス2022を開催した。本大会は「活動できる機会」「外出できる場」が減っている状況を踏まえ、障害をもたれた多くの方に「施設でも自宅でもどこでも、家族と仲間とスポーツを楽しむ」をテーマに「活動できる機会」を提供できるよう企画している。今年度は開催期間を昨年より2週間程延長し、また全国の県士会や非会員施設へも案内を送付し、大きく広報を行なった。結果、参加者390名(延べ635名)の大変多くの方に参加頂き、また県外(兵庫県)からも1名の方に参加頂いた。大変

喜ばしいことと感じている。参加者および協力頂いた会員の方に改めて感謝申し上げる大会は全4種目を設定し、全て個人競技にて各競技のタイムや飛距離、回数を競い、途中経過も随時webにて公表した。

参加頂いた方や入賞された方からのコメントも頂き(下記参照)、企画して良かったと感じる。次回への要望などもあり、身が引き締まる思いである。

生きにくい社会が続く中、「私らしく暮らす」ことがとても大切に感じる。本大会の参加を通して、日常では感じることでできないドキドキやワクワクを感じ、笑顔で楽しい時間を感じて頂けたのなら幸いである。



【部門別参加率】

成人部門 (20歳以上65歳未満)	10.5%
シルバー部門 (65歳以上85歳未満)	35.4%
ゴールド部門 (85歳以上)	54.1%

【参加者・スタッフからのコメント】

優勝者	光栄です。風船は弾むなぁと考えながら挑戦しました。参加するのは楽しいので、また頑張ります
準優勝	とても嬉しいです！来年は頑張って1位になりたいです！練習のときはスタッフの人達も手伝ってくれて楽しかったです。また来年もお願いします！
入賞者	みんなでたくさんの競技を一緒にでき楽しかった
参加者	・何度やっても楽しかったです。また来年も頑張りたいです ・新しい競技もやってみたい ・難しい競技もあった ・種目を増やしてほしい。皆でできるものがあればいいと思う。来年もあったら参加したい
スタッフ	・毎週やりたいといってくれる患者さんもいて、作業活動のモチベーションになって良かった ・景品の効果かもしれませんが、普段参加しない方も高い意欲で参加して良かったです ・選手間で一喜一憂して、盛り上がったりにして楽しそうでした

【競技別延べ参加者数】

競技名	成人部門	シルバー部門	ゴールド部門
フライングディスク	31名	51名	79名
風船リフティング	12名	33名	39名
スタッキングタワー	24名	54名	81名
ピンポンカップイン	31名	87名	113名

今年度の振り返りと来年度に向けて

公益社団法人 石川県作業療法士会 副会長 寺田 佳世
(石川県リハビリテーションセンター)

職能団体とは、専門的資格や技術や知識を持つ専門職の従事者らが、自己の専門性の維持・向上、専門職としての待遇や利益を保持・改善したり、専門職同士の親睦や互助を行ったり、専門職の団結による社会的提言や社会貢献、研究などの活動を行うための組織である(Wikipediaより)。

令和5年1月の当会正会員数は868名であり、作業療法の職能団体として、①専門的資格や技術の向上を図ること。②専門性のスキルを上げるための後輩支援にあたること。③作業を通して人々の健康と幸福を実現する「作業療法」の理念に基づき、障害のある人や高齢者の活動や参加に寄与すること。④将来の発展を支える作業療法士の人材確保のため作業療法の魅力を啓発すること。⑤会員数の拡大に伴い新しい県士会組織の在り方を検討すること。を目的に、持続可能な事業運営を、模索しているように思える一年であった。

①については、日本作業療法協会による生涯教育制度が構築され、認定作業療法士や専門作業療法士等の質の高い作業療法士の認定制度を設けているが、当会はどちらも所得率は全国一位であり、そのために受講を必要とする研修等については一年で取得できるように努めている。また、一人職場や若い会員の方々のキャリアアップを応援するためのキャリアラダーを作成し啓発普及を行っている。②については、臨床で困ったこと等を気軽に先輩に相談できる「なんでも相談会」を各支部で開催している。また、研究や事例検討等において、進め方やまとめ方など

の助言が必要な場合も後輩育成の体制を整備しているので、経験不足が不安な場合も躊躇せずどんどん利用してほしい。③については、昨年に引き続き「リハビリテーション・スポーツフェス」を開催し、今年も多くの方々に参加頂いた。COVID-19により長年継続してきた「石川県リハビリテーション風船バレーボール大会」が開催できない状況が続いており、オンラインを通してスポーツの楽しさを伝えているが、来年度は多くの方々と風船バレーを楽しめたらとも思う。また、地域高齢者と高校生がスマートフォンやタブレットを活用して世代間交流をはかる機会を設け、高齢者のデジタルリテラシー向上と作業療法の魅力を伝える事業を開催した。④については、小学生、中学生、高校生と多くの若者に作業療法の魅力を伝える事業を展開している。小学生には作業の体験を通して作業療法を伝え、高校生には高齢者との交流を通して作業療法士の視点を伝える機会を設けた。⑤はやがて1000人を超える会になるが、県内の4つの支部活動を中心に多くの会員がどんどん参加し、活動ができる組織にしていくことが必須であると思っている。どんな事業を行ううえでも人は財産であり力になる。多くの方々に「作業療法」を実践し、事業を継続していくには何よりも人が大事である。多くの会員の力で、力強い職能団体であるための組織の構築が必要であると思う。

次年度も引き続き、これらを目的として質の高い作業療法を各地域、各分野で展開することを目標に、多くの後輩OTの方々と共に進んでいきたいと思う。



第31回石川県作業療法学会テーマに こめた想い

次期学会長 川上 直子(恵寿総合病院)

本学会のテーマは「作業療法士の専門性を活かす～人々の生活の可能性を広げる～」である。OTとして専門性を高め、力を発揮していくことで、対象者の生活だけでなく、私たちの仕事や生活の可能性も広げていきたいという想いで考えた。初日の教育セミナーは石川県内で活躍されているの方々にご講演いただき。福祉用具専門OTの寺田佳世氏(石川県リハビリテーションセンター)と認知症専門OTの明福真理子氏(はまなすの丘)には専門性の追求、認定OTで七尾自動車学校に勤務する高間達也氏には新たな分野への挑戦を通して、参加者の皆さんで作業療法の魅力を改めて感じたいと思っている。

このニュースがお手元に届くころは、3月31日(金)の演題募集締め切り間近だと思う。本学会はまず題名を登録した後に4月30日(月)までに抄録を提出していただく。発表しようか悩んでいる方がいらっしゃれば、ぜひもう一步踏み出してご自身の可能性を広げるきっかけにさせていただきたい。

第31回石川県作業療法学会

日時：令和5年6月24日(土)
25日(日)

会場：石川県地場産業振興センター



学会Instagram

「夢をもつこと、挑戦する気持ちの大切さ」 中高生による高齢者の生活向上プロジェクト特別講演会および活動報告

事業部担当理事 米田 貢
(金沢大学)

公益社団法人石川県作業療法士会事業部では2021年度から、「中高生による高齢者の生活向上プロジェクトを実現するためのキャリア教育支援」を実施してきた。このプロジェクトは、近年増加する高齢者の社会的フレイル(虚弱)を解決すること、中高生の「生きる力」を育成するためのキャリア教育を支援することを目的とし、公益財団法人 日本財団の助成金を得て実施してきたものである。令和5年1月29日(日)、2年間の活動の報告会と特別講演会を開催した。

特別講演会では、東京パラリンピック・車いすバスケットボールの銀メダリストの宮島徹也氏(株式会社オー・エル・エム・デジタル)をお招きし、「夢をもつこと、挑戦する気持ちの大切さ」と題して、中高生への応援メッセージをいただいた。講演では、ご自身が中学2年生の時に左脚を失うことになったエピソードに触れ、当時の素直な想い、支えてくれたご両親や友人、様々な葛藤があったという内容は、中高生にとって想像もつかないことかもしれないが、感慨深かったことであろう。そこから車いすバスケットボールと出会い、「日本代表になる」という夢に向

かってチャレンジを始めることになるが、簡単ではないことは誰でも想像できるだろう。そして、実際に日本代表選手となり、パラリンピックに4度参加し、北京(2008年)、ロンドン(2012年)、リオデジャネイロ(2016年)、そして東京パラリンピック2020(2021年)で銀メダルの獲得に至った。ここまでのご自身の経験をもとに、中高生に向けて「考え方のヒント」を7つご提示いただいた。対談では、高校生からいただいた質問、「何かに挑戦するときに、ついてくる不安はどうしたらよいか」、「ネガティブ思考から抜け出すには、どうしたらよいか」などに、宮島選手から「まずはやってみる大切さ」を優しいお言葉でお話しいただいた。

報告会では、当会のニュース、広報誌COTOTでも掲載してきた、小学生の親子体験会、中高生の作業療法体験セミナー、中高生ボランティアによる高齢者のオンライン体験と交流会の活動報告があった。

これらの活動内容は、COTOT特別号で報告する予定である。



宮島徹也氏の特別講演会の様子

各施設における災害時の対応等に関する調査結果報告

災害対策委員会担当理事 東 ひとみ
(石川県リハビリテーションセンター)

当委員会では、発災時の会員の安否確認や各施設の状況を把握し、当士会での対応を検討できるよう、災害対策システムの構築を考えている。今回、各施設での災害時の安否確認方法、災害時マニュアルの整備状況等を把握し、今後の参考とするため調査を実施し、47施設(当県士会員所属施設の約2割)から回答を得た。調査に協力いただいた施設の会員の皆様には厚く御礼申し上げます。結果について、以下のとおり報告する。

安否確認方法は、72%の施設が有ると回答し、施設全体のみ17施設、部門別のみ7施設、両者が10施設であった。最も多かった確認方法は、施設全体では一斉メール、部門別ではLINEであり、外部業者の安否確認システムを利用する施設もあった。確認方法の満足度について、74%の施設が満足しているが、26%の施設がやや不安や不満を感じていた。その理由として、「返答までに時間差がある」、「グループLINEで共有しているが、それ以外の連絡ツールがないこと」、「LINEもツールとして使用するが全員出来ない」、「携帯が使えないときに連絡がとれない」、「訓練を十分にしていないため」などの意見があった。尚、安否確認方法を用いた平時からの訓練等については、27施設が実施しており、内10施設が当士会の発災時訓練を利用していた。

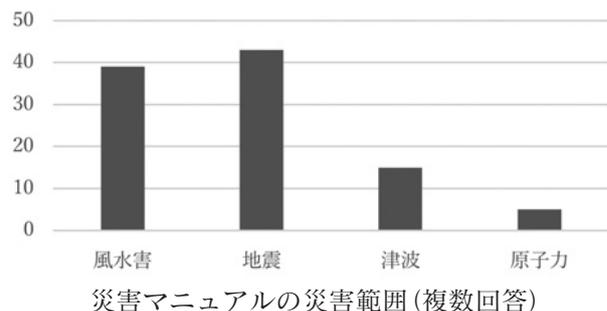
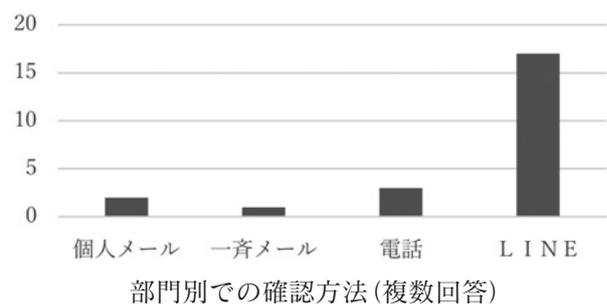
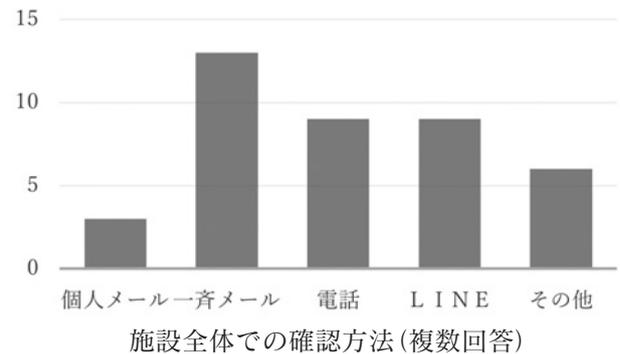
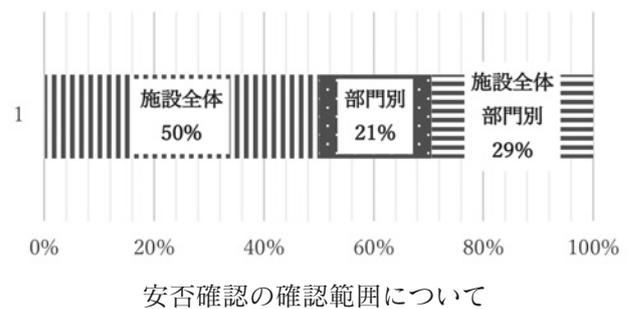
災害時の行動指針については、83%が有ると回答し、内5施設が今回の調査を機に確認したという回答があった。

各施設の災害マニュアルについては、85%が有り、11%が準備中で、災害範囲は地震、風水害、津波、原子力の順に多かった。

災害時の当士会から部門の安否確認や被災情報を問い合わせへの協力は、77%ができ、23%ができないという回答であった。

今回の調査で、各施設の状況を把握できたとともに、会員の皆様が改めて施設の災害時の対応について確認する機会となった施設や当会の発災時訓練を活用していることが分かった。災害はいつ起こるか

わからないからこそ、平時の備えが重要であるため、今回の調査結果を参考に、当士会における災害対策システムを検討していきたいと思う。そのため、今後も会員の皆様のご協力をお願いしたい。



令和4年度福祉機器部研修会 「モノづくりの専門職とOTの協働について」

福祉機器部部長 城野 友哉(金沢福祉用具情報プラザ)

令和5年1月19日(木)、石川県リハビリテーションセンターのリハビリ工学技師の北野義明氏と寺田佳世氏(福祉用具専門OT)を講師に、標記研修会を開催した。

講義ではモノづくりの専門職の立場から、対象者の生活行為における様々な課題に対して、OTと協働してどのような支援を行っているのか具体的に教えていただいた。一例として、リウマチの方の調理動作に対してOTが生活課題を見極め、鍋など重たい調理器具を持ち上げずスライドできるように、キッチン

シンクや食卓と同一の高さに調整した運搬用のワゴンを導入した事例が紹介され、対象者の自立度やQOLを向上させるうえで、互いの職種の強みを活かした協働の重要性を改めて認識した。

利用者の「やりたい作業」を実現していくために、OTは課題を明確にし、必要な機能、能力を評価する。手作りの自助具や既製品ではあと一歩足りない時に、モノづくりの専門職と協働することで、利用者の「やりたい作業」の達成につながるのではと感じた。

■モノづくり(エンジニア)からOTへのお願い

- 立場**
- ・人と道具と環境が適合することで、自立度やQOLが向上
 - ・適合や開発には、身体特性や活動を理解しているOTが重要

- 個別適合に向けて**
- ・ユーザの身体特性や環境を分析・整理して、どこにどのような課題があるか伝えて欲しい
 - ・ユーザの身体特性と個人的な嗜好とを区別し、重要度を整理し、場合によってユーザを誘導して欲しい
 - ・実現にあたり、矛盾が生じた際に、どの課題を優先するかを判断して欲しい(「全部必要」だと、解決できない)

- 製品開発に向けて**
- ・どのような対象ユーザが想定され、どのような群に体系化を図れるか検討して欲しい
 - ・個人的な嗜好と身体特性に起因する事象かを判断して欲しい
 - ・これらを加味して体系的な整理を図ったうえで、ものづくり側と対話して欲しい(ものづくり側が提案するので、それと向き合って欲しい)

■作業療法に必要な視点 「ストレングアプローチ」

「～ができない」ではなく「～ができる」
●リハ専門職の中でも作業療法士は良いと探し職種

「～できる(能力)」の獲得と確認

- 本人、家族が何ができるのか気づいていない
- 成功体験を増やしながらか「できること」の確認作業が重要
- その時期に必要な経験と可能性を見いだす
- 残存能力・潜在能力+環境・道具の活用

「～する活動(活動レベルの目標)」へのアプローチ

- 本人がエンパワメントを持ち自立への準備ができるように
- 作業療法がエンパワメントの「武器」になるように

令和4年度北陸三県合同MTDLP事例検討会を終えて

恵寿総合病院 五十嵐 満哉

令和5年2月18日(日)に北陸三県合同のMTDLP事例検討会がオンラインにて開催された。各県から計30名近くの参加があり、4事例の検討が行われた。今回は就労をテーマに就労に繋げるまでの過程で難渋したり、他職種と連携を図る上でツールを用いてアプローチを試みたなどの場面でMTDLPを活用した発表が多かった。グループワークでは普段各支部で行っている検討会とは少し異なり、各県での地域の課題や施設での取り組みなど違った意見を聞き、紹介し

あう機会もあったことで各々が勉強になったかと思う。私自身も指導者の立場ではあるが、様々な意見を聞くことで新たな視点や学びがあり大変参考になった。

次年度は石川県が主管での開催を予定している。私たちが普段行っている作業療法の思考過程をまとめ、各シートに落とし込むことで対象者の望む作業を実現でき、自身のスキルアップにも繋がるため多くの参加や発表をお待ちしている。

能登支部

恵寿総合病院 小川 正人

令和5年2月4日(土)に研修会と事例検討会をハイブリッド形式で開催、30余名の参加と4事例の検討が行われた。詳細は定期便に譲るが、講師の木谷氏(精神保健福祉士)から、就労支援におけるOTの専門性、質の高い評価への大きな期待と、多くのOTにもっと

地域に出てきてほしいという少し耳の痛い言葉を頂き、OTの新たな活路も実感できた。検討会は多くの意見、考えを皆で共有し有意義な時間となった。次年度も研修、検討会で皆様とお会いするのを楽しみにしている。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

令和5年2月9日(木)の第3回事例検討会では38名が参加し5事例の報告があった。記憶障害に対しメモリーノートを活用した事例や失行患者に対し入浴場でエラーレス学習を導入した事例、なじみある活動で情緒の安定を図った事例、本人が希望する車の運転再開からその先の想いに繋がった事例、拒否の

ある失語患者に対し成功体験を積み重ね意欲が向上した症例について、活発な意見交換や認定OTによる建設的な助言等が行われた。加賀支部以外からの報告や参加もありオンラインのメリットを享受する会となった。次年度も支部の内外を問わず積極的な参加を期待する。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

令和5年2月1日(水)に第3回MTDLP事例検討会を開催した。11施設から17名の参加をいただき、2事例の検討を行った。県外協会員からの報告希望があり、久々に2事例の検討を行うことができた。終末期がん患者が脳梗塞を発症した方に対する作業療法と放課

後児童デイでの脳性麻痺児への作業療法について検討した。どの事例也多職種連携が必要な事例でありとても新鮮で興味深い事例であった。様々な分野の事例を検討できるのも支部事例検討会の魅力と思われる。

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

令和5年1月25日(水)にMTDLP事例検討会、2月3日(金)に一般の事例検討会を開催した。一般の方はハイブリッドにて行い、現地参加の方の人数が多かった。終了後に個別の相談等もできたため、やはり対面のよさを感じることができた。

来年度も同様に事例検討会を実施予定だが、MTDLPは初めての参加など参加に慣れていない方へのサポート行う予定なので、経験のない方は積極的に参加していただきたい。

【連載】障害福祉分野における作業療法士の支援 ～情報その4～

地域保健福祉部福祉部員 特別養護老人ホームあかつき 上谷 久美子
あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 藤森 満美子

今号で連載最後となる「高齢期」における作業療法士(OT)の関わりとサービスについて紹介する。

在宅で生活する障害のある方は、65歳を節目に障害者総合支援法から介護保険制度が優先され制度が切り替わる。ただし前号で紹介した障害福祉サービス固有のもの(自立訓練、就労移行支援、就労継続支援等)は、必要な場合は利用が可能であり、そのニーズ分析が重要である。一方で障害のある方は、加齢による筋緊張の変化やそれに伴う二次的な障害が加わり、在宅生活や社会参加に支障がでてくるため、医療と介護の連携による在宅支援が不可欠となる。

在宅支援では、訪問リハや通所リハでの予防的な視点や、機能低下が生じていても今までしていた活動を如何に継続し、生活行為を維持していけるか等のニーズが多く、OTの関りがとても重要となっている。

障害者施設に入所している方は、介護保険制度の適応とならないことから施設内の高齢化が進んでおり、車いすが必要となる方や使用している車椅子が合わなくなる方がいる。壮年期から継続して関わる施設のOTは、心身機能の維持・減退防止を目的として、生活の中での運動の確保や姿勢管理、環境調整、目的活動等の生活行為向上に関わっている。

今年度、ライフステージに合わせたOTの関わりやサービスを紹介してきた。高齢期では、加齢による身体機能の変化だけでなく、環境の変化がストレスとなり心身機能の低下に繋がることもあるため、安心した生活が続けられる支援が必要である。

そのため、各ステージに移行する際には、これまでの支援が途切れないよう、関係機関と情報共有を図り、連携していかなければならない。

◆◆◆令和4年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第5回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時：令和5年1月13日(金) 19時00分～21時 西泉事務所およびZoom使用によるWEB会議
2. 出席：東川、寺田、麦井、桂(以上会場)安本、東、米田、村井、柿島、中森、永井、合歓垣、酒野、越田、坂下、加藤(理事16名)、堀江、長原、西村、小川(支部長4名)(Zoom) 書記：山本(Zoom)、築山、濱岸(会場)

【審議事項】

《精神医療部》令和5年度事業予算でSNS管理料を支給することは可能か。会としては対価を支払いたいが、現在の財務状況では支払いは困難。継続審議

《加賀支部》研修会の参加率向上のため、取得したメールアドレスに参加を促すメールを送ることは可能かどうか。同意取得方法を含め、規約作成の必要性の有無等を検討してほしい。行ってもよいが、大変慎重に扱う必要がある。別のツールの活用も検討する。 **承認**

《事業部》高齢者のオンライン体験と中高生の交流会事業について。継続のためにタブレットの購入が必要。予算の確保、人員の確保が必要。 **承認**

《運転とOTに係る委員会》県内外の自動車学校から発達障がいや精神疾患を有する方についての悩みを聞かれることが多く、就労移行支援の企業からも問い合わせが多い。参加希望があれば研修会を案内してもよいか。参加費は異なるが、案内をしてもよい。 **承認**

《広報部》県士会ニュース126号について。原稿〆切2/15、発行3/15としたい。7頁半分に地域保健福祉部保険の連載を今回も入れる。 **承認**

【報告事項】各部局、支部より報告があった。

インフォメーション

令和5年度 会費納入についてのお知らせ

- ・ **継続** 石川県作業療法士会年会費：8,000円
- ・ **新規** 4月以降に県士会へ新規入会：13,000円(入会費5,000円+年会費8,000円)

【納入期間】令和5年4月1日～令和5年4月末日(期間厳守でお願いいたします)

【納入先】

- 北國銀行 野田支店 普通 260902

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗

- 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会

ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく！！

県士会ホームページ(<http://www.ishikawa-ot.com>)より

『会員の皆様へ』(スマホの場合は右上のメニュー) → 『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先(公社)石川県作業療法士会 事務局

jimu-n2@ishikawa-ot.com FAX：076-259-0681

選挙公示

令和5年5月の任期満了に伴い、公益社団法人 石川県作業療法士会定款第25条に基づき、役員選挙規定による役員候補者選挙を行います。

それに際し、理事(15名以上18名以内)・監事(2名)の立候補を受け付けます。立候補受付期間は、令和5年3月15日～3月28日(当日消印有効)です。理事選挙に立候補される方は、所定の届出用紙および選挙公報に掲載する意見等を、期間内に選挙管理委員会(〒920-8621 石川県金沢市小坂町中83番地 浅ノ川総合病院 リハビリテーションセンター 小浦 綾乃 宛)まで届出をお願いします。

詳細については、選挙公示または県士会Webをご確認下さい。

選挙管理委員会

令和5年度

公益社団法人

石川県作業療法士協会 総会(予定)

～表彰式典・新人歓迎会～

日程：5月20日(土)

場所：KKRホテル金沢

〒920-0912 石川県金沢市大手町2-32 TEL 076-264-3261

※COVID-19感染の拡大状況によっては変更あり



PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー

リハノメとは

「リハノメ」はPT・OT・STのための、
どこでも学べるオンラインセミナーサービスです。
臨床に悩むPT・OT・STのために、
各分野の専門家が臨床経験や研究成果に
基づいた知識・技術をお届けいたします。

どこでも
学べる

日本最大の
講師数

オフライン
再生対応

POINT 5

定額見放題

31
配信スケジュール
随時公開

1ヶ月見放題プラン

通常料金 3,080円が初回限定で…

980円 (税込) お申込はこちら



作業療法士/
山梨リハビリテーション病院
リハビリテーション部 副部長 兼
作業療法課長
山本 伸一 先生

作業療法士/ 目白大学保健医療学部
作業療法学科 准教授
佐藤 彰弘 先生

法人様向けプランも
ご用意しております

株式会社 **gene** ジーン

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1丁目26-12 IKKO 新栄ビル6階

✉ seminar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611

リハノメ 検索

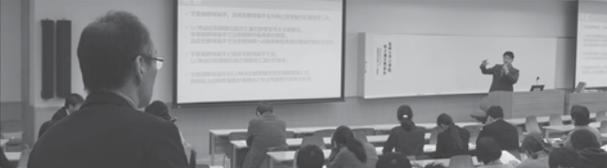
ケアスタッフ、看護師向け
オンラインセミナー

ケアラル

ナースグデ

リハノメ
HPは
こちら





**「超高齢社会」、
そして「アフター・コロナ」に向けて。
現場の悩みを解決したい方や、
学びの追及をしたい方へ。**

金城大学 大学院で学んでみませんか？

- ・総合リハビリテーション学研究科
- ・総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

遠隔オンライン
学習対応

安心設定の
学納金

就業しながら学べる
昼夜開講制



2021年度
「作業療法士」91.3% (2021年度卒業生実績)
国家試験合格率 (全国平均88.7%)

金城大学

詳しくは、
ホームページを
ご覧ください。



全国に広がる有料老人ホーム

**パーキンソン病専門
PDハウス**



施設 **ビジョン**

「我がままに生きる」

「病気だからできない」ではなく「病気ででもできることはある」という視点から、利用者様が様々なものに挑戦できる環境を目指しています。また、現場で働くセラピストの想いや技術が活きる、未来ある場所になるよう日々試行錯誤しています。

働き方改革 目標

2023年に向けた

公休数
120日

残業
0時間

有給取得
100%

出店計画

- 関東エリア
 - PDハウス相模大野 …… 2021.01
 - 東京1号店 …… 2021.夏
 - 神奈川2号店 …… 2021.秋
- 関西エリア
 - PDハウス岸部 …… 2021.06
 - 大阪2号店 …… 2021.秋
- 北海道エリア
 - PDハウス西野 …… 2020.11
 - 札幌2号店 …… 2021.春
- 福岡エリア
 - PDハウス有田 …… 2020.06
 - PDハウス今宿 …… 2021.05

PDハウス野芥 笠松 朋枝

PDハウスには、元気で優しく知識が豊富で、尊敬できるスタッフさんがとても多いです。私もまだまだ周りの皆さんに助けられてもいるのですが、これからは私も自身が成長し、頼ってもらえるような存在になることが目標です。

働き方
公開中!



介護サービス
サンウェルズ

0120-905-166



賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人董仙会
学校法人金城学園
株式会社gene

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈恵会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団千木福久会
社会福祉法人寿福祉会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団竜山会金沢古府記念病院
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団光仁会
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社
株式会社ヤマシタ
セントラルメディカル株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社北陸営業所

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

Web会員手続きがお済みでない会員は、QRコードからWeb会員登録フォームにアクセスして登録してください。登録いただいた

メールアドレスに研修会案内や県士会からの連絡などをML配信します。



県士会Web QRコード▶



会員数

会員数 855名(令和5年2月現在) 認定作業療法士数 33名(令和5年2月現在)

専門作業療法士数 5名(令和5年2月現在)

編集後記

動画を倍速でみる人が増えている。かく言う私も、その一人。

「〇倍速で見ると〇分で見られます」と最初から謳っている動画も多い。

コロナ禍によりリモートや動画での学習に慣れた学生は、授業が長くて耐えられない。

倍速で動画を見て、重要な部分だけを通常速度で見るため、通常速度で進む授業がもどかしいらしい。リモート授業では取って早口で話すと言う教授もいる。

サブスクの影響から、膨大なコンテンツの処理過程を考えると今後も増々加速するだろう。紙媒体の県士会ニュースもコスパを考え、的確で簡潔な情報の提供と倍速では得られないモノを伝える努力の必要性を痛感する。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：酒野直樹、米田貢、越田雄、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、北野早紀、亀井友稀乃、竹中朋也、白山武志、藤田朱音、村井俊太、福岡翔平、長谷梨紗、仲佐東、宮腰真、上野玲子、川上直子、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社